

学芸職員部会ニュース

第 85 号

2016 (平成 28) 年 6 月 3 日

発行：北海道博物館協会学芸職員部会

学芸職員部会 事務局次長に就任して

学芸職員部会 事務局次長 八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館 大谷 茂之

平成 27 年度の総会から役員体制が変わり、新たに事務局次長を務めさせていただくことになりました。私が部会に参加するようになったのは様似町からで、この学芸員同士が教え合い、自館で生かせる何かを持ち帰れるような研修会スタイルしか知らない世代となります。まだまだ若輩者で、教え合うというよりは教えていただくことの方が多い自分ですが、今後学んだことをお返しできるような頑張っていきたいと思っております。

さて部会 HP 上では第 3 回目のコラムリレーが続いておりますが、第 1 回コラムリレーを本にして発刊できるよう、作業チームで編集を進めていただいております。一人で、ひとつのテーマに対して様々なコラムを書くのは大変ですが、各々が様々な視点からコラムを書いていただいたため、非常にバラエティ豊かな本になるでしょう。こうやって、一人ずつが少しずつ力を出し合って、それを合わせてより良い部会を作っていきたいと思っております。

今年は、帯広にて学芸職員部会設立 40 周年の総会・研修会が開催されます。研修は、「学校と連携した地域学習」をテーマに行われる予定です。多くの方々にお会いし、交流できることを楽しみにしております。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

平成 27 年度は役員の改選が行われ、留任が 13 名、新任が 6 名の計 19 名という下記の顔ぶれとなりました。この場にてご紹介します。また、各役員で担当を割当て、仕事内容を明確にするようにしました。

役職	氏名	ブロック	所属	担当	
部会長	森岡健治	日胆	沙流川歴史館	—	留任
副部会長	佐藤卓司	道央	小樽市総合博物館	—	留任
副部会長	澤田 健	道北	富良野市博物館	—	留任
幹事	齋藤謙一	道北	稚内市教育委員会	助成金	留任
幹事	藤沢隆史	道北	礼文町教育委員会	総会	留任
幹事	山田 央	道南	七飯町歴史館	研修会	留任
幹事	石井淳平	道南	厚沢部町役場付	研修会	留任
幹事	伊藤大介	道央	二セコ町有島記念館	研修会	新任
幹事	佐藤一志	道央	江別市郷土資料館	部会ニュース	留任
幹事	林 勇介	北網	湧別町ふるさと館 JRY・郷土館	部会ニュース	留任
幹事	会田理人	道央	北海道博物館	部会ニュース	留任
幹事	栗原憲一	道央	北海道博物館	HP 管理、学芸員 DB	新任
幹事	平野敦史	日胆	仙台藩白老元陣屋資料館	研修会	留任
幹事	加藤ゆき恵	道東	釧路市立博物館	総会	留任
幹事	持田 誠	道東	浦幌町立博物館	研修会	新任
監事	森 久大	道北	士別市立博物館	—	新任
監事	新川剛生	日胆	新冠町郷土資料館	—	新任
事務局長	猪熊樹人	道東	根室市歴史と自然の資料館	会員、会費、事業	留任
事務局次長	大谷茂之	道南	八雲町郷土資料館	コラムリレー、メルマガ リスト	新任

平成 27 年度 学芸職員部会 総会・研修会が開催されました

9月25～26日の2日間、士別市を会場に平成27年度学芸職員部会総会・研修会が開催されました。学芸員や博物館関係者、総勢47名の方が参加し、初日は森岡健治部会長と士別市教育委員会安川登志男教育長からご挨拶をいただいた後、研修会を開始しました。その後、総会の協議、研修会、交流会、2日目にエクスカージョンを実施しました。

【研 修 会】

研修会は、「展示リニューアルの裏話～成功と反省から学ぶ～」と題し、4名の会員に事例報告をしていただきました。その後、報告者と参加者のワークショップでは活発な議論が行われました。

※新ひだか町・枝幸町・士別市のリニューアルの詳細は、前回の部会ニュースをご覧ください。

事例報告 1

展示リニューアルでやってはいけない10のこと —北海道博物館を事例に—

北海道博物館 会田 理人 氏

平成27年4月に北海道開拓記念館と道立アイヌ民族文化研究センターが統合し、リニューアルオープンした北海道博物館の展示作業で実感した10の事項が発表された。

①オープンまで時間が無いのにも関わらず、こだわってしまった。②外国語表記を多くしようとしたが、館内に精通する職員がおらず、検証できなかった。③匂いのする展示を企画したが、他の場所に拡散するので機能させていない。④大規模な「からくり」展示は、音が響くなど、思いのほか他の展示に影響が出る。⑤既存の展示ケースを再利用しようとしたが、規格が合わなかった。⑥解説パネルが多く、資料よりも目立ってしまった。⑦デザインに凝り過ぎて、見やすさが疎かになってしまった。⑧新規の展示ケースなどは「枯らし」に十分な時間がなかった。⑨キャプションを自前で作成したため、作業が追い付かなかった。⑩トップダウンで方針転換の指示があり、作業が混乱した。

事例報告 2

新ひだか町博物館開館までのみちのり

新ひだか町博物館 藪中 剛司 氏

新ひだか町博物館は、平成27年5月4日にオープンしたばかりの施設。図書館との複合施設として新規開館したが、収蔵部門は従来の施設を利用。士別市博物館を参考にオープンカウンターを設置してみたものの、利用者が少なく、上手く機能していないなどの話があった。

事例報告 3

枝幸町オホーツクミュージアムえさしの改修について

オホーツクミュージアムえさし 高島 孝宗 氏

オホーツクミュージアムえさしは、歌登町と合併したため、枝幸・歌登両地域の資料を

展示するために、常設展示室を大幅に拡大。従来の埋蔵文化財展示室に、歴史系と自然系の展示室を設けた。リニューアル前からあったオホーツク土器のモニュメントが移動できない思わぬ誤算もあった。

事例報告 4

リニューアルしたのかな？展示案を考えることは

士別市教育委員会 水田 一彦 氏

今回のリニューアルでは、当初から決められた予算の範囲内で実施しなければならない制約があった。展示資料の交換や清掃には市内のボランティアが大きな役割を果たした。リニューアルによって、従来の死角や閉塞感が解消された。オープンカウンターを設置し、学芸員を配置。利用者から声をかけてもらうなど、好評である。スペースを利用して様々なイベントを開催している。

事例報告のあと、北海道博物館栗原憲一氏をコーディネーターに、ワークショップを開催しました。ワークショップは、「ワールドカフェ」の方式をとり、受付の際にあらかじめ4つに分けられたグループ単位で行動し、10分を目安に各事例報告者をまわり、質疑応答を行いました。



【総 会】

まず平成 26 年度の事業・決算報告が説明され、原案通り承認されました。続いて平成 27 年度の事業計画・予算等が協議され、概ね原案通り承認されました。昨年度と変更点のあるもの、新たな取組み等について、以下のとおりご紹介します。



①学芸職員部会調査研究助成事業

これまで助成金額は1件当たりの助成金額は5万円でしたが、予算の都合により4万円に変更されました。件数は3件までと変更ありません。

*平成 27 年度分は 11 月 30 日に応募を締め切り、5 件の応募がありました。抽選の結果下記の 3 件に決定しています。

氏名	所属	申請事業名
猪熊樹人	根室市歴史と自然の資料館	釣針製作用具にかかる民具調査
石井淳平	厚沢部町役場総務政策課付 自治労檜山地方本部出向中	まちをまるごとオープンデータにする事業
志賀健司	いしかり砂丘の風資料館	海岸のホネ図解／イルカ編

②冊子製作ワーキンググループ

学芸職員部会 HP で実施しているコラムリレーについて、第一弾「北海道で残したいモノ、伝えたいモノ」（平成 25 年 3 月 6 日～平成 26 年 3 月 13 日：全 52 回）の冊子化を検討しています。平成 28 年度が部会 40 周年でもあるため、それに合わせて平成 28 年 9 月の完成を目指しています。

なお、出版費用の一部には、平成 27 年 7 月 9 日に土屋周三会員より部会にお寄せ頂いた寄付金が含まれていることを申し添えます。

③部会 HP コラムリレーの継続

27 年度は現在実施中の第 3 弾「学芸員の伝えたい地域の遺産」を継続し、新たなテーマについては役員会で検討し新たな執筆者を募る予定です。

④情報提供「国立アイヌ博物館の設立準備」について

文化庁調査官（元帯広百年記念館）の内田祐一さんから、平成 32 年の北海道初となる国立博物館設立に向け、各博物館・資料館のネットワークを見据えた運営を目指すべく、基本計画の概要など情報提供がありました。

⑤情報提供「雑誌記事索引採録誌選定基準の改訂」について

現況報告として持田誠学芸員（浦幌町立博物館）から、平成 25 年に道博協・日博協を通じて提出していた要望書について、国立国会図書館から具体的な回答が得られていないことが報告されました。博物館の刊行物が雑誌記事索引に採録されないことはインターネット上で記事を見つけることが出来ない状態に繋がるため、博物館の情報を有効に公開するためにも、要望だけでなく博物館側としても他に出来ることがないか検討が必要であることが確認されました。

【交流会】

42 名もの参加があり非常に賑やかな交流会となりました。これほど多くの学芸員が集まる機会も少ないためか、みなさん積極的に情報交換を行っている様子が印象的でした。また、事務局からコラムリレーの宣伝も兼ねまして、投稿者の内、閲覧数の上位者に対して記念品が贈呈されました。うらやましいと思った会員の皆様、コラムリレーの参加者は随時受け付けていますので、ぜひともご投稿ください！

【エクスカージョン】

2 日目の研修会のエクスカージョンでは、土別市立博物館と恩根別ダム周辺の露頭などを見学しました。博物館では、昨日の研修会で水田次長からお話があった点を中心に、森久大学芸員から館内の展示リニューアルにつ



いてご説明いただきました。ポイントは、昆虫・植物標本を展示収納兼用の棚で保管する点、開放的なエントランスホール、照明を変更した明るい展示室化等です。限られた予算でも展示室改装には大きな工夫ができることが勉強になりました。

露頭観察は、元道立理科教育センター地学研究室長でもある士別市博物館特別学芸員の岡本研氏にご案内いただきました。移動の車中で観察地の地質「幌加内オフィオライト」について説明があり、露頭の観察後は沢で指導を受けながら、希少な岩石である「リヒター閃石岩」の採集に挑戦しました。

野外調査で得られたデータは博物館内で資料の展示や映像展示などで活用され、博物館がその情報拠点となる工夫が凝らされていました。フィールドと博物館を効果的結びつけるための工夫が勉強できる有意義なエクスカージョンでした。



福岡イト子先生からのメッセージ

長年、学芸職員部会で御指導頂いた福岡先生が退会にあたってメッセージを頂きました。

平成27年8月20日

北海道博物館協会学芸職員部会
部会長 森 岡 健 治 様
部会のみなさまへ

博物館に育てられて 一退会のご挨拶一

福 岡 イ ト 子

このたび私事ですが、高文連郷土部 50 周年記念講演を期して、貴会を退くことになりました。長い間、ご助言ご指導と研究資料等をいただきありがとうございました。

思えば、博物館との深いかかわりは 1967 年、学芸員の夢を果たせなかった一介の高校教員が旭川市で郷土部顧問となり、はじめてフィールドワーク「上川アイヌの研究」で失敗したことに因ります。そのとき、松井恒幸市立旭川郷土博物館長（1928～1982）にどれほど救われたことか。アイヌの人たちの居住地域に住まいし敬慕されていた館長さんは、すぐにも上川アイヌ伝統文化伝承者を紹介してくださった上、聞き取り調査の仕方まで教えていただきました。展示では、冬のはきものチエプ・ケリ鮭皮・靴の片方の靴底を来館者に向けて、鮭の背びれが滑り止めの役になるという見せる工夫に“モノ”からアイヌの生活の知恵や精神文化を学ぶことができました。

いわば「上川アイヌの研究」は失敗に学び、継続していったといえるでしょう。やがて、松井恒幸館長さんとの出会いにより歴代の部員のなかから顧問に就任し、半世紀にいたりました。部活動で生徒たちは、上川アイヌの人たちの精神文化の根幹に触れ、ふだん忘れかけていた心の存在に気づかされたといいます。

往時、北海道には3人の「博物館人」と呼ばれる方がいらっしゃいました。釧路・沢 四郎館長（故人）、旭川・松井恒幸館長（故人）、苫小牧・佐藤一夫館長さんで、因みに入会のきっかけは、

沢 四郎さんの退職祝いの席で矢吹俊男部会長の薦めによるものでした。このころは、博物館と学校教育の連携が叫ばれていました。

現在、旭川市では松井館長の薫陶を受けた学芸員、館長時代の面々（美術館を含む）が中心となって「あさひかわ学研究会」を立ち上げ、月例会と通信 225 号を発行しています。彼らが学芸員のころ、高文連郷土部上川支部の高校生たちとビートルズの曲を聴きながら合同発掘調査に汗を流した若き発掘仲間でもありました。例会では今まで分からなかったことが明らかになることが多々あり、郷土部顧問と再調査中です。

高文連郷土部も時代環境により少子化を迎え、少数精鋭の現状のようですが、どうか斯道のため学芸職員部会の部会長さんをはじめ、みなさまのお力添えをいただきたく切にお願いいたします。

これからは、学芸職員部会で培われた経験と知恵に 70 年代の風雪の群像爆破事件など記憶の伝承者として記録に残そうとっております。大変お世話になりました。

貴会のますますのご発展とみなさまのご活躍をお祈り申し上げます。

（元高文連郷土部上川支部専門委員・元旭川龍谷高郷土部顧問）

ようこそ！学芸職員部会へ！

今年度、学芸職員部会に新しく加入された方を紹介いたします。（50 音順）

奥山 英登さん（旭山動物園）

はじめまして。旭川市旭山動物園の奥山 英登（おくやま ひでと）と申します。動物園では、教育活動とインドクジャクの飼育展示を担当しています。専門はなんでしょう・・・？強いていうなら「動物園教育」でしょうか？

昨年9月に、土別市立博物館にて開催された総会研修会に初めて参加させていただき、それから学芸職員部会に入会させていただきました。部会の活動は、知り合いのとある学芸員さんから伺っていました。なんでも、「いろんなアツい人がいて、いろんな勉強になるし面白いよ！」と。

当園は、登録博物館でもなく博物館相当施設でもありません。さらに、日本博物館協会にも、北海道博物館協会にも登録しておりません。私はいちおう学芸員の資格は持っているものの、ただ持っているだけでそれっぽい仕事もしていない・・・「こんな私が参加していいのかな？」そんな思いで研修会に伺いました。

研修会は、驚きでした。たくさんの人！そして、アツく交わされる議論！懇親会も夜遅くまで続き、そこでも議論の花が・・・とにかく圧倒されました。研修会が終わったあとも、「集まれ！北海道の学芸員」のサイトやメーリングリストで、頻繁に情報が交換されているのを知ります。「北海道という広い大地に、いろんな分野で、それぞれにアツい学芸員さんたちがたくさんいる！」と、動物園という狭い世界の中にいた自分が、いかに勉強不足であったか痛感いたしました。

私は、バイクツーリングを趣味としております。雪が溶けたら皆さまの博物館に伺い、さらに勉強させていただきたいと思います。その際は、ちょっとだけでも構っていただけたら幸いです。今後とも、よろしくお願いいたします。

木戸 奈央子さん（北海道教育大学大学院）

学芸職員部会の皆さま、はじめまして。今回学芸職員部会に入会し、研修会に参加しました木戸奈央子と申します。専門は陶磁器です。主に幕末から明治期の道内出土陶磁器について研究していますが、今年度は白老町で地域の方々や小中学校を対象にアイヌ文化の教育普及活動に携わり、分かりやすく楽しみながら学べるような体験学習を目指して取り組んできました。最近、幕末から近代にかけて道内向けに大量生産された越後産焼酎徳利に注目しています。皆さまの地域にある焼酎徳利についても調査しに伺いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

研修会では、展示リニューアルについてのワークショップが自分にとって大変刺激となりました。博物館のような施設に所属していませんので、様々な館の皆さまの質問や回答は自分が気付かないようなことばかりでとても勉強になりました。また、その後の交流会では皆さまとご挨拶させていただき、たくさんの情報もいただきました。今後は自分も情報提供できるように、知識や技術の習得に努めていきたいと思っております。

私事ですが、4月より北海道教育大学大学院に在籍し研究を行います。色々な分野において日々勉強中の身ですが、この学芸職員部会において皆さまと交流できることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

☆ 編・集・後・記 ☆

役員改選により、部会ニュースの担当も新体制となりました。新メンバーとなって最初の発行となる今号では、早速、発行時期が大幅に遅れてしまうという失態をしてしまいました。部会ニュースを楽しみにしていただいていた会員の方々はもちろん、早々に原稿を頂いていた方々に大変な失礼をしてしまったことお詫びいたします。

今号は土別での研修結果を中心に掲載し、あわせて、新入会員紹介を掲載しました。新入会員となってまだ紹介文の依頼がないという方、また、「このような内容を記事にしてほしい」というご要望がありましたら、編集担当までご連絡下さい。

新会員の募集も随時行っていますので、職場内でまだ会員になっていない方がいればお誘いいただきますようよろしくお願いいたします。

（入会申込案内 <http://www.hkma.jp/hkcurators-recruit>）

北海道博物館協会 学芸職員部会ニュース 第85号

発行日 2016年6月3日

編集 会田 理人（北海道博物館）

佐藤 一志（江別市郷土資料館）

林 勇介（湧別町ふるさと館 JRY・郷土館）

発行者 北海道博物館協会学芸職員部会

〒087-0032 北海道根室市花咲港 209 根室市歴史と自然の資料館 tel/fax 0153-25-3661

北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp/>

学芸職員部会ホームページ <http://www.hk-curators.jp/>